

【28-01】ヤサの教化——ヤサに法眼生ず

バーラーナシー (Bārāṇasi) の長者の子ヤサ (Yasa) が釈尊に会いに来て説法を聞き、法眼を生じる。

[A] 原始聖典

- ① ‘Theragāthā’ Vs.117 (p.017) ; (Yasa theraの詩) 油を上手に塗り、よい衣服を着、あらゆる装身具で飾られていた (在家の) 私は、三明に到達した、仏の教えは実行された (suvilitto suvasano sabbābharaṇabhūsito, tisso vijjā ajjhagamim, kataṃ buddhassa sāsanam) 。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.015) ; そのときバーラーナシーにヤサという繊細な性質の良家の子、長者の子があった (Bārāṇasiyaṃ Yaso nāma kulaputto setṭhiputto sukhumālo hoti) ……。世尊が四聖諦を説かれたとき、ヤサに法眼が生じた。「生じるものはすべて滅するものである」と。
- ⑦ 四分律「受戒毘度」(大正22 p.789中) ; 爾時世尊遊波羅捺国。時波羅捺国有族姓子、名耶輪伽。父母只有此一子、愍念瞻視不去目前……。世尊漸與説法、勸令発歆喜心……。即於座上諸塵垢尽得法眼浄、見法得法成就諸法、自身得果證。前白仏言、我欲於如来所浄修梵行。仏言、比丘来、於我法中快自娛樂、修梵行尽苦源。時耶輪伽、即受具足戒。
- ⑧ 五分律「受戒法」(大正22 p.105上) ; 復有長者子、名曰耶舍。本性賢善。厭離世間。喜樂聞法。世尊作是念。彼耶舍長者子、当以信出家……。仏為説種種妙法示教利喜、次説四諦苦集滅道。即於坐上遠塵離垢得法眼浄。
- ⑩ 根本有部律「破僧事」(大正24 p.128下) ; 爾時仏在波羅痾斯城婆羅捺河辺。時彼城中有長者子。名曰耶舍……。耶舍亦爾。初聞仏説心器清浄、便能了知四聖諦法、證預流果、見法得法極通達法。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175) ; それから仏は、耶舍 (Yasa) という良家の子の〔帰仏の〕可能性あるを見て、彼が夜分に厭世の志を起し、家を棄てて出て来た時、「来れ耶舍よ」と呼び留めて、その晩に預流果、翌日阿羅漢果に入らせ給い……。
- ③ 中本 (大正04 p.149上) ; 於時波羅捺城中、有長者名阿貝利。有一子、字曰地地 (晋言宝称)。時年二十四、……中夜歎覺、……尋光詣仏。……仏言、童子善来……逮無垢法眼。
- ⑩ 仏讚 (大正04 p.030下) ; 時彼鳩尸城 長者子耶舍 夜睡忽覺悟 …… 出家詣山林 …… 如来夜経行 聞唱惱乱声 …… 即命汝善来 此有安隱処 …… 耶舍聞仏教 心中大歡喜…… 聖慧冷然開
- ⑫ BC. (16-03) ; ……そのころ、ヤシャスという名のある長者の息子は……〔世間を〕厭離する気になった。……人の心と煩惱とをよく知れる如来は、〔ヤシャスを〕ごらんになって仰せられた。「絶対の安らぎ (涅槃) のなかには災いはない。来れ。至福を得よ」
- ⑬ 行経 (大正04 p.079下) ; 時波羅捺城 有大長者子 …… 厥名曰宝称 ……
- ⑭ 過去 (大正03 p.645上) ; 爾時有長者子、名曰耶舍。是時耶舍、聞説此語、即於諸法、遠塵離垢、得法眼浄。
- ⑮ 集経 (大正03 p.814下) ; 爾時彼城有一最大巨富長者、名曰善覺。……一男兒、……耶輪陀 (耶輪陀者隋言上傘)。時耶輪陀、即於彼坐、遠塵離垢、尽煩惱界、離煩惱已、於諸法中、生浄法眼。……得法眼浄。
- ⑯ MV. (vol. III p.402 Jones III p.402) ; ベナレス (Vārāṇasi) に一人のギルドの長がいた。樹

神に祈り、子供が生まれ、ヤショーダ (Yaśoda) と名づけた。成人し、世尊の話を聞いて出家を願う。仏所に詣り四聖諦を聞いて、三明 (tisro bhijñā)、六通 (ṣaḍbhijñā)、自在神力 (bala-vaśibhāva) を得た。

- ⑰衆許 (大正03 p.954下) ; 時波羅奈国中有俱梨迦長者子、名曰耶舍。……時彼耶舍……譬如白色之……衣易為染着、得離塵垢獲法眼淨……。

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.040上) ; 爾時有長者子、名曰耶舍。……是時耶舍聞説此語、……法眼淨。  
(出因果經)
- ③氏譜 (大正50 p.092下) ; 經云。次度長者子耶舍得初果。
- ④統紀 (大正49 p.154上) ; 五年(甲申)有長者子、名曰耶舍。……於中夜見空中光開門尋光趣鹿野苑。
- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.119) ; そして大師は、そこで族姓子ヤサ (Yasa) が家を捨てて出たその夜のうちに彼を預流果に安立せしめ (翌日阿羅漢位に安立せしめ) た。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.120, 赤沼 p.159) ; 仏陀が鹿野苑に在した時であった。……婆羅那斯の国に耶舍 (Ratha) と名くる長者の息子があつた。……鹿野苑の幽居へ向けて歩を運んだ。……仏陀は法を説き初め給うた。……これらの懇ろなる教を承けて、……耶舍はすべての欲情を離れて、直に豫流果に入ったのである。

#### 【28-02】ヤサの教化——ヤサの父が優婆塞となる

ヤサ (Yasa) を探しに来た父親に、釈尊はヤサの姿を隠して法を説き、ヤサの父が仏・法・僧の三宝に帰依して優婆塞となる。

### [A] 原始聖典

- ①Vinaya 'Mahākhanda' (vol. I p.016) ; 長者ヤサに法眼が生じた。彼は「私は世尊と法とサンガに帰依します (ahaṃ bhante bhagavantam saraṇam gacchāmi dhammañ ca bhikkhu-saṃghañ ca)」と、初めて三帰依を唱えた優婆塞となった (so 'va loke paṭhamam upāsako a-hosi tevāciko) 。
- ⑦四分律「受戒毘度」 (大正22 p.789下) ; 耶輸伽父……即於座上諸塵垢尽得法眼淨……。前白仏言。我今歸依仏歸依法歸依僧。唯願世尊、聽為優婆塞。自今已去尽形寿、不殺生乃至不飲酒。是為最初優婆塞三自歸耶輸伽父為首。
- ⑧五分律「受戒法」 (大正22 p.105中) ; 後伎直覺、共求耶舍不知所在、白其父母。父母四向推求絡繹而追……。彼即於坐上遠塵離垢得法眼淨、見法得果。見法得果已、受三自歸次受五戒。是為諸優婆塞於人中耶舍父最初受三歸五戒。
- ⑩根本有部律「破僧事」 (大正24 p.129中) ; ……乃至令彼長者得預流果。

### [B] 仏伝經典

- ③中本 (大正04 p.149中) ; 仏為説法、生死由癡、恩愛有離。破二十億惡、入須陀洹。
- ④過去 (大正03 p.645下) ; 無常苦空無我。……時耶舍父、聞説此言、即於諸法、遠塵離垢、得法眼淨。……即於仏前、受三自歸。於是閻浮提中、唯此長者、為優婆塞、最初獲得供養。
- ⑤集經 (大正03 p.818中) ; 時彼長者即於彼坐、遠離塵垢、如實證知、於諸法中、得法眼淨。……爾時人間彼大長者、最在初首、為優婆塞。人身之中、以三白成三歸依者、謂耶輸陀善男子父。

- ⑯MV. (vol.Ⅲ p.413 JonesⅢ p.414) ; ヤシヨダ (Yaśoda) の両親は法眼淨を得た。  
⑰衆許 (大正03 p.955中) ; 爾時世尊又為広説四諦之法。時俱梨迦長者因是除去塵垢得法眼淨。  
……仏言、俱梨迦、汝今於吾受得三歸依竟。當為世間第一優婆塞。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.040中) ; 時耶舎父聞説此言……法眼淨。(出因果經)  
③氏譜 (大正50 p.092下) ; 父來覓子。仏為説法得法眼淨。為説三歸優婆塞初。  
④統紀 (大正49 p.154上) ; 時耶舎父尋子仏所。仏為説法得法眼淨。受三自歸、為最初優婆塞。  
⑥Bigandet. (vol. I p.122, 赤沼 p.161) ; 耶舎の父は、息子の足跡を認め、その跡を遂うて、  
仏陀の御住居の見ゆる処まで進んだ。……仏陀はこの勝れた聴者のために教法を説き給うたが、  
聴者は直に心開けて豫流果に入った。

【28-03】ヤサの教化——ヤサ阿羅漢果を得る

出家の許しを得たヤサが直ちに心解脱して阿羅漢果を得る(1)。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.017) ; 世尊がヤサの父に説法されたとき、ヤサは執著  
なく、諸漏から心解脱した。  
⑦四分律「受戒毘度」(大正22 p.789下) ; 爾時世尊與耶輸伽父説法。時耶輸伽身漏尽意解、得無  
碍智解脱爾時世間有七羅漢。弟子有六仏為七。  
⑧五分律「受戒法」(大正22 p.105下) ; 時耶舎觀諸法漏尽心得解脱。其父白仏言。仏為我説法  
而使耶舎快得善利。於是耶舎從坐起、白仏言。世尊、願與我出家受具足戒。仏言。善來比丘。乃  
至鉢盂在手。亦如上説。爾時世間有七阿羅漢。  
⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.129中) ; 其子耶舎、猶著俗時種種珍寶莊嚴之具、得阿羅漢  
果。……於是時中世間有七阿羅漢。仏為第一。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175) ; 翌日阿羅漢に入らせ給い……(【28-01】に含む)。  
③中本 (大正04 p.149上) ; ……仏言、善來比丘、便成沙門。……宝称心解、便得羅漢。  
①仏讚 (大正04 p.031上) ; 宿殖善根力 疾成羅漢果  
②BC. (16-07) ; かくて前世〔に植えた善〕根の力によって、そのままの〔世俗の〕姿をとりな  
がら、身によりまた心によって〔ヤシヤスは〕阿羅漢のさとりを得た。  
④過去 (大正03 p.645中) ; 於是如来、重説四諦。漏尽意解、心得自在、成阿羅漢果。……心自  
念言、世尊所以説此偈者、正当以我猶着七宝、我今宜当脱如此服、……聽我出家。仏言、善來比  
丘。鬚髮自落、袈裟着身、即成沙門。  
⑤集經 (大正03 p.818中) ; 其耶輸伽善男子父於説法時、如是證見、……一切法中、心得解脱…  
…長者去未久間、……與我出家。受具足戒……善來比丘。……時其長老耶輸伽身即成出家、得具  
足戒、為大沙門。……此世間中、七阿羅漢。  
⑰衆許 (大正03 p.955上) ; 於是世尊又為広説苦集滅道四聖諦法。於是耶舎即於座上得漏尽意解  
證無學果。……猶着在家宝飾之衣、……願為沙門。……仏言、善來苾芻。鬚髮自落袈裟着身、成  
沙門形儀相具足。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.040中）；於是如来重説四諦……成阿羅漢果。……心自念言、世尊所以説此偈者……。〔出因果経〕
- ③氏譜（大正50 p.092下）；（長者子、父、耶舎、同友五十人……得初果）不久皆得羅漢。
- ④統紀（大正49 p.154上）；仏説四諦成阿羅漢、願求出家。仏言善來比丘、即成沙門。
- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.119) ；翌日阿羅漢位に安立せしめた。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.123, 赤沼 p.164) ；仏陀が父に説法して在した間、若き耶舎は大師から受けた最高の格言について、深奥にして荘重な黙想に耽っていた。……父が去って間もなく、耶舎は比丘となった。ここに於て、世間に七阿羅漢があることとなった。

(1) 出家しないで阿羅漢となったとするものもある。

[28-04] ヤサの教化——ヤサを侍者とする

釈尊はヤサを侍者として長者の食事供養を受ける。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.017) ；ヤサの父はヤサを随従沙門 (pacchāsamaṇa) として食を受けられるよう世尊に請い、世尊は受けられた。ヤサは具足戒を得た。その時世間に阿羅漢は7人となった (tena kho pana samayena satta loke arahanto honti)。
- ⑦四分律「受戒捷度」 (大正22 p.790上) ；唯願世尊、今受我請、及耶輸伽并侍比丘。爾時世尊默然受請。
- ⑦四分律「棄捷度」 (大正22 p.869上) ；爾時世尊在波羅捺。有居士耶輸伽父往詣仏所頭面禮足却坐一面。爾時世尊無数方便為説法開化令得歡喜。耶輸伽父聞仏説法開化、心大歡喜已從坐起、白仏言。願受我請。時耶輸伽侍從世尊後。時世尊默然受請……。
- ⑩根本有部律「破僧事」 (大正24 p.129中) ；爾時長者白仏言。世尊、願仏世尊至明日時與子耶舎來我宅中受我供養。爾時世尊默受其請。長者知仏許已禮足而去。爾時世尊。至時著衣持鉢與耶舎童子到長者宅。

[B] 仏伝経典

- ⑮集経 (大正03 p.819上) ；爾時世尊於晨朝時、着衣持鉢、命耶輸陀、用為侍者、向其父家。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.123, 赤沼 p.165) ；翌朝、仏陀は黄衣をつけて、鉢を持し、耶舎比丘を伴うて家を出で、約束に従うて、耶舎の父の家へ行き給うた。…… (耶舎の母と妻とによって) 仏陀とその忠実の侍者とは、恭しく饗せられた。

[28-05] ヤサの教化——ヤサの母と妻が優婆夷となる

ヤサの母と妻が仏・法・僧の三宝に歸依して優婆夷となる。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.018) ；具壽ヤサの母と旧妻 (āyasmato Yasassa mātā

- ca purāṇadutiyaikā) に法眼が生じた。「生じるものは滅すものである」と。彼女らは三宝に帰依し、初めて三歸依を唱えた優婆夷となった (tā 'va loke paṭhamaṃ upāsikā ahesuṃ tevācikā)。
- ⑦四分律「受戒度」(大正22 p.790上)；耶輸伽母及其本二……即於座上諸塵垢尽得法眼淨、見法得法成就諸法。即白仏言、自今已去歸依仏法僧、聽為優婆夷。我自今已去尽形壽、不殺生乃至不飲酒。是謂最初受三自歸優婆夷、耶輸伽母及其本二為首。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.105下)；仏言。姉妹汝歸依仏歸依法歸依比丘僧。即受三歸次受五戒。是為耶舍母初受三自歸五戒。爾時世尊為耶舍母拏家大小、說種種妙法示教利喜。皆遠塵離垢得法眼淨、見法得果。見法得果已、皆受三自歸次受五戒。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.129中)；時耶舍母及妻……乃至證預流果。爾時其母及妻、既見法證法已。

## [B] 仏伝經典

- ⑮集經(大正03 p.819上)；是時長老耶輸陀母、并及長老耶輸陀婦、來向仏辺。……世尊次第而為說法。……彼等於坐、遠離諸塵、……得淨法眼。……歸依仏法、及歸依僧、即受五戒。爾時世間、當於是日、最初人中、三歸受戒、先得成為優婆夷者、……母、并……婦、所有一切諸眷屬等。
- ⑯MV. (vol. III p.413 Jones III p.414)；【28-02】に含む。(ヤサの両親、但し妻の記述なし)
- ⑰衆許(大正03 p.956上)；爾時世尊為耶舍母及諸眷屬、如応說法……耶舍母等不起於座得法眼淨。……爾時世尊即為受其三歸。

## [C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.125, 赤沼 p.165)；仏陀の座を占め給うや、耶舍の母と妻とは直に仏陀の御許に来て世尊を礼し奉った。仏陀はこれに対して教法を説き、……二人の女性は……豫流果に入り、仏教教団最初の優婆夷となった。……女性の内で、一番最初に三宝……に歸依した人達であった。

### 【29】ヤサの4人の友人の出家

ヤサの友人4人はヤサが出家して阿羅漢果を得たことを聞いて、彼らも出家して阿羅漢果を得る。

## [A] 原始聖典

- ①Vinaya 'Mahākhanda' (vol. I p.018)；具壽ヤサに4人の在家の友人がいた。バーラーナシーの良家の息子たちで、Vimala、Subāhu、Puṇṇaji、Gavampatiといった。彼らはヤサが出家したと聞いて、彼らも出家して心解脱を得た。その時世間に阿羅漢は11人となった (tena kho pana samayena ekādasa loke arahanto honti)。
- ⑦四分律「受戒度」(大正22 p.790中)；爾時世尊、遊波羅捺国。時耶輸伽有少小同友四人、在波羅捺住。一名無垢、二名善臂、三名滿願、四名伽梵婆提。……便得尽有漏心得解脱無礙解脱智生。時此世間有十阿羅漢、弟子如來為十一。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.105下)；爾時耶舍有四友人。一名滿足、二名善博、三名離垢、四名牛主。聞耶舍於沙門瞿曇所出家修梵行、共議言。其道必勝、乃使豪族不顧世榮。我等可共到大沙門所淨修梵行。四人欣悅慕道於心……。爾時世間有十一阿羅漢。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.129下)；時波羅痲斯城諸長者等、聞第一長者子耶舍剃除鬚髮被於法服隨仏世尊而作弟子。其第二長者子、名曰富樓那。其第三長者子、名曰無垢。第四長者

子、名曰驕梵拔提。第五長者子、名曰妙肩。……善来苾芻、汝便出家修諸梵行。作是語已彼長者子等鬚髮自落袈裟著身成苾芻相。……時四苾芻聞仏此言即便悟解證阿羅漢果。時此世間有十一阿羅漢。仏為第一。

- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.156下）；往詣波羅痾斯城度橋陳如五苾芻衆。次度耶舍五人。次度賢衆六十人民。

## [B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175)；他に彼（ヤサ）の友達五十四人をも「来れ比丘よ」という出家法によって出家させて、阿羅漢果に達せしめ給うた。
- ③中本（大正04 p.149中）；於時宝称親友四人、一名富禰、二名惟摩羅、三名橋炎鉢、四名須陀。聞宝称已作沙門、……共出詣仏、……願為弟子。仏言、善来比丘、皆成沙門……便得羅漢。
- ④仏讃（大正04 p.031上）；先有俗遊朋 其数五十四 尋善友出家 隨次入正法
- ⑤BC. (16-16)；それから彼（ヤサ）の友人五十人と三人と一人とが、彼に対する友情に惹かれて〔次々と〕その真理を得るにいたった。
- ⑥行経（大正04 p.080中）；縁宝称功德 四友因得度 滿成與無怙 牛呵及善與
- ⑦集経（大正03 p.819中）；爾時天竺波羅奈城、有四居士大富長者。……第一名毘摩羅（隋言無垢）、其第二者名修婆暎（隋言善臂）、第三名為富蘭那迦（隋言滿足）、第四名為伽婆跋帝（隋言牛主）。……彼四長者皆悉一時成阿羅漢。……彼時世間成就一十一阿羅漢。
- ⑧衆許（大正03 p.956中）；爾時俱梨迦復有四子。一名布囉努、二名尾摩羅、三名誡鏤鉢帝、四名蘇摩斛。見彼耶舍投仏出家證羅漢果、……兄弟四人、……詣仏所、證羅漢果、是時乃有十大阿羅漢。

## [C] 後世の仏伝資料

- ⑨JM. (p.030, 畑中 p.120)；また同じく、その場で彼（ヤサ）の友達54人を阿羅漢位に安立せしめた。
- ⑩Bigandet. (vol. I p.129, 赤沼 p.167)；婆羅那斯の名門の出で、嘗て耶舍と厚い友情を汲みかわした四人の貴公子があった。……耶舍は仏陀の御許に四人の友達を伴うて、自分の受けたと同じい御教を四人のものに垂れ給わんことを願うた。……この説法が終わった時に、若き公子達は比丘となるに相応わしい心根を得て、仏弟子となった。これで世界に十一人の阿羅漢があることとなった。

### 【30】ヤサの50人の友人の出家

ヤサの友人50人はヤサが出家して阿羅漢果を得たことを聞いて、彼らも出家して阿羅漢果を得る。

## [A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhanda’ (vol. I p.020)；具寿ヤサに50人の在家の友人がいた。良家の息子たちで、彼らはヤサが出家したと聞いて、彼らも出家して心解脱を得た。その時世間に阿羅漢は61人となった (tena kho pana samayena ekasaṅgīhi loke arahanto honti)。
- ②四分律「受戒羯度」（大正22 p.790中）；爾時世尊、遊波羅捺国。時耶輸伽少小同友有五十人、在波羅捺城外住。……有漏心解脱無礙解脱智生。時此世間、有六十阿羅漢、弟子如来為六十一。
- ③五分律「受戒法」（大正22 p.106上）；耶舍昔所交遊、復有五十人。聞耶舍於瞿曇所修行梵行、

共議出家乃至得阿羅漢。皆如上説。爾時世間有六十一阿羅漢。

- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1027上）；時有梵天、來請世尊。於波羅痾斯、三轉法輪。時會聽者、有大臣子五十餘人。既聞法已、並請出家及受近円。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.130上）；波羅痾斯城中有五十豪族家……。時五十苾芻聞仏言已心獲無礙證阿羅漢果。時此世間有六十一阿羅漢。仏為第一。
- \*⑦四分律「受戒捷度」（大正22 p.790下）；爾時世尊、遊波羅捺国。時有同友五十人、來向波羅捺国、欲成婚姻、在波羅捺城外處處遊觀、漸詣仙人鹿野苑。時五十人等遙見世尊顔貌端正衆相殊特、見已發歡喜心、於如來所、即前頭面禮足、在一面座已。時世尊與説勝法、勸令發歡喜心。……有漏心解脫無礙解脫智生。時世間有百一十阿羅漢、弟子仏為百一十一。

## [B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175)；他に彼の友達五十四人をも……斯うして世に六十一人の阿羅漢が出来た時……。
- ③中本（大正04 p.149中）；是時波羅奈傍県、名曰荼、有五十人。因事詣国、聞宝称富褥等皆作沙門。……徑詣鹿園、……願為弟子。仏言、善來比丘、悉成沙門、……皆得羅漢。
- ①仏讃（大正04 p.031上）；先有俗遊朋 其数五十四 …… 上行諸声聞 六十阿羅漢 悉如羅漢法 随順而教誡
- ②BC. (16-16~18)；……彼（ヤシャス）の友人五十人と……そのとき、六十人の最初の弟子の阿羅漢の集団すべてに向かつて、その阿羅漢たちに尊敬されている阿羅漢〔であるブツダ〕は、適切に正しく告げられた。
- ③行經（大正04 p.080中）；將五十童子 得度脱諸苦 …… 彼諸世尊辺 始六十羅漢
- ④過去（大正03 p.645下）；爾時又有耶舎朋類五十長者子。……聞耶舎於仏法中出家修道、……共詣仏所、……得法眼淨、……聽我出家。仏言、善來比丘、鬚髮自落、袈裟着身、即成沙門、……得阿羅漢果。爾時始有五十六阿羅漢。
- ⑤集經（大正03 p.820上）；爾時長老耶輪陀、身昔在家有五十朋友。……彼等長老悉成漏尽諸阿羅漢、心善解脫。……於時世間合成六十一阿羅漢。謂仏世尊、及五比丘、并耶輪陀、其耶輪陀波羅奈城、有四善友、無垢善臂、満足牛主、其耶輪陀、在家朋友、諸大長者、有五十人。並是別国相召集來、或前或後、善男子等。
- ⑦衆許（大正03 p.956下）；爾時波羅奈國中復有大族諸長者子正五十人、與俱梨迦子常為朋友……悉皆證得阿羅漢果。於是世間始有六十大阿羅漢。

## [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.040下）；爾時又有耶舎朋類、五十長者子。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.092下）；又度耶舎同友五十人、不久皆得初果。
- ④統紀（大正49 p.154上）；又耶舎朋類五十長者、聞耶舎出家、共詣仏所願求出家。仏言善來比丘、即成沙門。是時始有五十六羅漢。
- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.120)；また同じく、その場で彼（ヤサ）の友達54人を阿羅漢位に安立せしめた。……このようにして菩提から最初の雨安居の間に、世間には61人の阿羅漢が存することとなった。すなはち、正等覺者、五群比丘、ヤサ（Yasa）長老と彼の54人の友達の長老たちとである。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.130, 赤沼 p.171)；猶同じく耶舎の友達であつて、同様に名家の公子達である五十人の人々も……耶舎の住む僧舎を訪うて……耶舎はその人達を伴うて、世尊の御前にすすみ出て……仏陀は、教を垂れ給うたが、結果は非常によろしく、彼等は直ぐに比丘となる許

可を受けた。これで阿羅漢の総数は六十一人 (1) となった。

(1) 赤沼訳は六十人とするも、英文はsixty-oneとあり、これをとる。

### 【31】 富楼那の帰仏

釈尊と同じ日に出家し、ヒマラヤ地方で苦行していた富楼那 (Puṅṇa Mantāniputta) が、釈尊の成道を知って、鹿野苑を訪ねて帰仏し、阿羅漢果を得る。

### [A] 原始聖典

⑩僧祇律「雜誦跋渠」(大正22 p.412下)；仏告舍利弗。如来所度阿若憍陳如等五人善来出家善受具足。共一戒一竟一住一食一学一説。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀迦留陀夷優波離次度釈種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善来。如是等如来所度善来比丘出家善受具足、共一戒一竟一住一食一学一説。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善来出家善受具足乃至共一説。是名善来受具足。

\*③中阿含009「七車経」(大正01 p.431中)；於是尊者舎梨子問尊者滿慈子。賢者名何等、諸梵行人云何稱賢者耶。尊者滿慈子答曰。賢者我号滿也。我母名慈。故諸梵行人称我为滿慈子。(なおこの経から推測すると、滿慈子の生地は王舎城でもなく、また舎衛城でもない。MN.024 'Rathavinīta-s.' も同じ。)

### [B] 仏伝経典

⑮集経(大正03 p.824上)；「迦毘羅婆蘇都城邑の近くの一村に淨飯王の国師である一婆羅門がおり、その一子富楼那弥多羅尼子(隨言満足慈者)は太子と同日生れで本性世間を厭離し、解脱を志求す。菩薩出家の夜に朋友三十人と共に家を出て、雪山に居在し苦行もて道を求む。菩薩成道を聞いて雪山より下り、鹿野苑の仏所に往詣す。」

時富楼那、……見世尊……證得無上阿耨多羅三藐三菩提。……雪山下、……往詣仏辺。……時富楼那、得如来聴其出家已、乞受具足。及其朋友二十九人、彼長老輩、既得出家受具戒竟。……爾時世間、一切合成九十一阿羅漢。

⑯MV. (vol. III p.377, Jones III p.374)；さて、コーサラ (Kosāla) 国のドロナーヴァストウカ (Droṇavastuka) と名づける一村があった。そこに富裕な一バラモンが居り、妻の名前をマイトラーヤニー (Maitrāyaṇī) 息子をプールナ (Pūrṇa) といった。世尊が家を出られた同じ日にプールナも又家を出て、ヒマラヤの閑居に行った。彼はそこで修行し、二十九人の仙人を弟子として持った。彼は弟子達と共にベナレス (Vārāṇasī) の鹿野苑にやってきて、世尊に具足戒を乞う。世尊はプールナと二十九人に対し、善来比丘の定法を宣告する。

### [C] 後世の仏伝資料

### 【32】 那羅陀の帰仏と龍王の帰依

菩薩の出家成仏を予言したアシタ仙人の甥であるナーラカが、仙人の遺言にしたがって帰仏し、阿羅漢果を成じる。彼の姓はカートヤーヤナであったので、大迦旃延と呼ばれることになる。これに因んで龍王が帰依する。



[A] 原始聖典

- ⑥増一阿含05-08 (大正02 p.558中) ; 能降伏龍使奉三尊。所謂那羅陀比丘是。
- ⑦四分律「受戒毘度」(大正22 p.791上) ; 爾時世尊、遊波羅捺国。時伊羅鉢羅龍王、自出恒河水所居宮、手執金鉢盛滿銀粟、銀鉢盛滿金粟、將諸龍女、八日十四日十五日而説此偈……。爾時有一梵志、名那羅陀、住波羅捺城側。少垢利根多智聰明。時那羅陀、出波羅捺城、詣龍王所、到已語龍王言。汝今説偈。我欲與汝廣演其義……。有漏心解脫無礙解脫智生。時世間有一百一十一阿羅漢、仏為一百一十二。……仏告龍王。汝今歸依仏法僧。答言如是。我今歸依仏法僧。是為畜生最初受三自歸、伊羅鉢羅龍王為首。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.106上) ; 相師阿夷知菩薩成仏、当在波羅捺国仙人鹿苑中轉于法輪。又念。我命過後諸弟子中那羅摩納当紹繼我。我之供養悉当屬彼。彼必貪着無復憶仏出興世意。我今寧可於鹿苑邊為立舍宅。教令日日三念仏当出世。若出世時汝当於彼淨修梵行。念已即為立宅。如念教之。阿夷不久便命過。那羅果得供養貪着心深、都不復憶仏当出世。時伊羅鉢羅龍王作是念。昔迦葉仏記我。於当來過百千萬億歲、釈迦牟尼仏出現於世。仏当記汝脱龍身時、時今心至当往見仏。彼龍為見仏故、於六齋日在恒水中、用金鉢盛銀粟、銀鉢盛金粟。又莊嚴二女、而説偈言……。爾時那羅摩納、為摩竭国人所共宗敬……。摩納前禮仏足白仏言。世尊、願與我出家受具足戒。仏言。善來比丘。乃至鉢盂在手。亦如上説。出家未久、勤行不懈、得阿羅漢。爾時世間有六十二阿羅漢。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.110上) ; 時阿私陀仙説此頌已便即命終。爾時弟子那羅陀以種種如法供具、隨時殯葬已。便詣波羅痾斯城於彼而住與五百摩納薄伽、為其教示婆羅門薛陀呪。其那羅陀為是迦旃延姓因号迦旃延。若釈迦菩薩当成正覺、迦旃延詣於仏所、彼仏即喚大迦旃延而使以法教示令彼度生死大苦海、住於最上寂靜究竟涅槃。遂以名之為大迦旃延。後当得此名甘露。

[B] 仏伝經典

- ⑮集經(大正03 p.825上) ; 「阿槃提国彌猴食集聚落の婆羅門大迦旃延の第二子那羅陀は南方の優禪耶尼城の近くの頻陀山に住む仙人阿私陀仙(那羅陀の外舅)の弟子となる。共に波羅捺城外に移り住むが間もなく阿私陀仙は命終。一方伊羅鉢・商佉の二竜王は仏出世を求めて、二偈の義解を懸賞募集する。那羅陀は仏の教えを受けて解答する。伊羅鉢竜王は仏所に往詣し、弥勒仏出世の時、人身を得るとの記を受く。」  
是時長老那羅陀比丘、既出家已、具戒成就、……既得羅漢無着之果。……又有師言而此長老那羅陀者其本種族姓迦旃延。以本姓故、衆人称言大迦旃延。……是時世間、即成九十二阿羅漢。
- ⑯MV. (vol. III p.382, Jones III, p.379) ; アヴァンティ (Avanti) 国にマルカタ (Markaṭa) という町があり、そこに一人の富裕なバラモンが住んでいた。彼はウツジェーバカ・トーネーハーラカ (Ujjhebhaka Toṇehāraka) 国王の国師で、カートヤーヤナ (Kātyāyana) 姓に属し、二人の息子がいた。一人はナーラカ (Nālaka) といい、他はウツタラ (Uttara) といい。ウツタラが年長、ナーラカが年少。彼等の叔父はアシタ (Asita) といい、ヴィンディヤ (Vindhya) 山脈の隠所に五百人の弟子達と住んでいる仙人であった。一方ベナレスで開かれた祭りで、竜王エーラパトラ (Elapatra) はある課題を与え自分の娘と千の金片を賞として答を募集する。(この後竜王と世尊との問答、ナーラカと世尊との問答となる。) カートヤーヤナは世尊に入門を乞い、世尊は「来たれ、比丘」と呼びかけた。これが彼の受具足戒であった。

[C] 後世の仏伝資料

【33】 娑毘耶の帰仏

師を求めて諸国遊行していたサビヤが鹿野苑で釈尊に会い、帰仏して阿羅漢果を成じる。

[A] 原始聖典

[B] 仏伝経典

⑫BC. (21-28) ; 牟尼はシュラーヴァスティーにて、サビヤとニルグランタ（裸行のジャイナ教徒）のナプトリプトラ（?）、及びその他の異教徒たちの迷闇をお破りになった。

⑮集経（大正03 p.835中）；「北天竺特又尸羅城に生まれた一女はその薄相のため、外道波梨婆闍の養女となり、呪術等を教わり成長する。南天竺より遊歴の一道人と出会って一男児娑毘耶を産む。道人は彼女を捨てて南へ還る。娑毘那は成長後、南天竺に向い父と再会し、その後波羅捺城に至る。」

時娑毘耶……復白仏言、……聽我出家、并乞與我受具足戒。……得羅漢果、心善解脱。是時世間凡成九十三阿羅漢、第一世尊乃至最後及娑毘耶。爾時世尊成道之後、在波羅捺鹿野苑内、通及仏身、合八人、六月十六日安居、至九月十五日、合九十三人解夏。

⑯MV. (vol. III p.389, Jones III p.389) ; さてマトゥラー (Mathurā) に一人のギルドの長がいた。三つ子が生まれ、そのうちの娘は不吉として宗教生活に入られた。彼女は成長し、遊行生活に入り他の遊行者と議論し、名声を得るに至った。その頃一人の雄弁のバラモンがマトゥラーに入り、女性遊行者と討論を行い、これを敗り同居する。彼等は南の地方に旅に出て、九又は十ヶ月後にシュヴェータヴァラーカー (Śvetavalākā) の宿に泊る。そこでサビカ (Sabhika) という男子が出生する。彼は両親に育てられ、遊行者の知識すべてを教わって説法者となる。彼は師を求めて十六大国を巡り、バナレス (Vārāṇasī) に来て世尊に会う。彼は世尊によって回心し、自在神力 (balavaśībhāva) に達し、善来比丘の言葉によって出家具足戒を受く。

[C] 後世の仏伝資料

【34】 弟子たちを布教に出す

釈尊は弟子たちに人々を救済するために、「一つ道を2人で行くなかれ」と教えて遊行に出し、自分はウルヴェーラーに帰ろうとする。

[A] 原始聖典

①SN.04-05 (vol. I p.105) ; 世尊はヴァーラーナシーの仙人墮処・鹿野苑に住しておられた。世尊は多くの人々の利益と幸せのために、遊行せよ (caratha cārikam̐ bahujana-hitāya bahujana-sukhāya)。一つの道を二人して行くなかれ (mā ekena dve agamettha) 」と説かれた。

①Vinaya 'Mahākhandhaka' (vol. I p.020) ; 世尊は比丘たちに、「遊行せよ (caratha bhikkhave cārikam̐)。世間の利益のために二人して一つの道を行く勿れ (mā ekena dve agamittha)。法を説け (desetha dhammam̐)、梵行を示せ (brahmacariyam̐ pakāsetha)。私はまたウルヴェーラーのセーナーニ村 (Uruvelā Senānigama) に行つて法を説こう」と言われた。

⑦四分律「受戒毘度」（大正22 p.793上）；仏告諸比丘。汝等人間遊行、勿二人共行。我今欲詣優留頻螺大将村説法。対曰、如是世尊。

⑧五分律「受戒法」（大正22 p.108上）；於是世尊告諸比丘、汝等各各分部遊行世間、多有賢善能受教誡者。吾今独往優為界鬱鞞羅迦葉所而開化之。

①根本有部律「破僧事」（大正24 p.130上）；汝等各可隨詣諸方、為諸衆生作大利益。且令汝等各各而往、不用同行。我亦往優樓頻螺聚落、為利益故。……爾時世尊復告諸苾芻曰。我於天人繫縛中而得解脫。汝等亦得解脫。汝等應往余方作諸利益哀愍世間。為諸天人得安樂故汝等不得双行。我今亦往優樓頻螺聚落。諸苾芻等咸奉仏教唯然而去。

\*①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’（大本經 vol. II p.045）；ヴィパッシン仏は弟子たちに、一つの道を二人して行くな、6年後に波羅提木叉を誦すために戻ってきなさい、と説かれた。

\*②長阿含001「大本經」（大正01 p.009下）；爾時如來默自念言。今此城内乃有十六萬八千大比丘衆。宜遣遊行各二人俱在在処。至於六年、還來城内説具足戒。

\*⑥増一阿含24-05（大正02 p.619中）；爾時世尊告五比丘。汝等盡共人間乞食慎莫独行。

\*⑫法天訳「毘婆尸仏経」（大正01 p.157下）；時毘婆尸仏而作是念。此大苾芻衆住滿度摩城。宜減少令六萬二千苾芻往詣諸方、遊行聚落隨意修習。經六年後歸滿度摩城、受持波羅提目叉。

## [B] 仏伝經典

①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175)；(六十一人の阿羅漢が出来た時) 仏は雨安居を終わって自恣を行い、「比丘等よ、〔四方に〕遊行せよ」といって、六十人の比丘を諸方に遣り、お自身は優樓頻羅 (ウルヴェーラー *Uruvelā*) 林に赴き給うた。

③中本 (大正04 p.149下)；仏勅諸比丘。汝曹各行、広度衆生、隨所見法、……遷入泥洹。吾今独行、詣憂為羅果。

①仏讚 (大正04 p.031上)；汝今已濟度 生死河彼岸 所作已畢竟 堪受一切供 各応遊諸国 度諸未度者 衆生苦熾然 久無救護者 汝等各独遊 …… 時六十比丘 …… 各從其宿縁 随意詣諸方

②BC. (16-19)；比丘たちよ。お前たちは苦惱〔の河の彼岸〕に渡り、自分の偉大な事業をなし遂げた。〔いまや〕なお苦しんでいる他の人々を助けなくてはならないのだ。そのためにお前たちはみな、ひとりひとり〔別の道をとって〕この地上をめぐる歩き、疲れ果てている世間の人々のために、同情の心をもって教えを説きなさい。

③行経 (大正04 p.080中)；時仏以梵音 告諸弟子曰 汝等已度苦 曠然清涼安 衆生沈愛欲 受苦可憐傷 卿等宜慈愍 諸方宣化度 分布遣弟子 於是独遊行

④過去 (大正03 p.646上)；是時如來、告諸比丘。汝等所作已辦堪為世間作上福田、宜各遊方教化。以慈悲心、度諸衆生。諸今亦当独往摩竭提国、王舍城中、度諸人民。

⑤集経 (大正03 p.835下)；爾時世尊還在於彼波羅奈城鹿苑坐夏、告諸比丘作如是言。……若欲行至他方聚落、独自得去不須二人。

⑥MV. (vol. III p.415, Jones III p.416)；世尊は成道を遂げ、ヴァーラーナシー (*Vārāṇasī*) の鹿野苑リシヴァダナ (*Rṣivadana Mṛgadāva*) に居られた。そこで五比丘に告げられた。「比丘達よ、旅に出かけなさい。しかし二人が同じ道を行ってはならない。……私はウルヴィルヴァー (*Uruvilvā*) のセナーパティ (*Senāpati*) 村に行くであろう」

⑦衆許 (大正03 p.957上)；爾時世尊觀諸弟子而告之曰。……汝等今日悉於我処得聞正法、漏尽解脫……衆生為最福田、宜行慈愍隨縁利樂。

## [C] 後世の仏伝資料

③氏譜 (大正50 p.092下)；経云。仏告諸比丘。汝所作以弁、堪為福田、宜各遊方以慈度物。我独往摩揭提度諸人民。

④統紀 (大正49 p.154上)；仏告諸比丘。汝等宜各遊方教化衆生。

⑥Bigandet. (vol. I p.132, 赤沼 p.172)；或る日、仏陀は諸弟子を集めて左の如く語り給うた。

「……迷界の人々や、諸天のために働いて、解脱の福音を得さしめねばならぬ。……汝等は、二人して、同じい道を歩かぬように、各々違った方面へ出掛けて行かねばならぬ。さらば行いて、この最勝の法を宣伝せよ。……私はこれから施那（Thenā）村に路を取り、優留毘羅の幽居近くに留まるであろう」

【35】 悪魔を破す

悪魔が自分から逃れることはできないと釈尊を脅すが、釈尊はすでに脱したと悪魔を破す。

[A] 原始聖典

- ①SN.04-04 (vol. I p.105) ; 世尊はヴァーラーナシーの仙人墮処・鹿野苑に住しておられた。悪魔パーピマントが「あなたは悪魔に束縛されている (māra-bandhana-baddhosi)。私から逃れることはできない (na me mokkhasi)」と語りかけた。……
- ①SN.04-05 (vol. I p.106) ; 世尊は「1つの道を2人していく勿れ」と教えられた。悪魔パーピマントが「あなたは悪魔に束縛されている (māra-bandhana-baddhosi)。私から逃れることはできない (na me mokkhasi)」と語りかけた。……
- ①Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.022) ; 世尊が雨安居を過ぎされたとき、悪魔パーピマントがやって来て、「汝は縛されていて、自分から脱することはできない (mahābandhanabaddho 'si, na me samaṇa mokkhasi)」といった。世尊は「すでに脱した、汝は敗れた (mahābandhanamutto 'mhi nihato tvam asi)」と撃退された。
- ④雑阿含 1096 (大正02 p.288上) ; 一時仏住波羅捺国仙人住処鹿野苑中。……時魔波旬……説偈言、不脱作脱想 謂呼已解脱 為大縛所縛 我今終不放。……
- ④雑阿含 1101 (大正02 p.289下) ; 一時仏住波羅捺国仙人住処鹿野苑中。……作師子吼。謂苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、苦滅道跡聖諦。時天魔波旬……説偈言、何於大衆中 無畏師子吼 謂呼無有敵 望調伏一切。……
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.792下) ; 爾時世尊、以偈告諸比丘 我已脱一切 天及於世間 汝亦脱一切 天及於世間。爾時魔波旬、以偈向世尊説 汝為諸縛縛 天及於世間 一切衆縛縛 沙門不得脱 ……
- ⑪根本有部律「破僧事」(大正24 p.130上) ; 爾時惡魔作是念已、化為摩納婆往詣仏所……。

[B] 仏伝經典

- ⑮集經 (大正03 p.813上) ; (五比丘に説法の途中) 爾時魔王波旬、往詣仏世尊所。(偈頌のやりとり) ……於彼地方、没身不現。
- ⑮集經 (大正03 p.836上) ; (六十一阿羅漢を成じ、遊行せよとの説法の後) 爾時魔王波旬密来往詣仏所。(偈頌のやりとり) ……從彼地方忽然不現。
- ⑯MV. (vol. III p.415, Jones III p.416) ; (一人で遊行せよとの説法の後) 最も邪悪なマーラが混乱させるように世尊に近づき、偈頌の問答をする。マーラは打ちのめされ、完敗して姿を消す。
- ⑰衆許 (大正03 p.957上) ; 時彼罪魔摩拏嚩迦、自變其身同世間人、如展臂頃即至仏所。……時魔摩拏嚩迦聞是語已、即自思惟。此瞿曇沙門知他心事必不能乱。唯自苦惱隱没而退。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.132, 赤沼 p.174) ; (二人して行くなかれの説法の後) その時、悪魔は仏陀の前に顯われて、次の様に誘惑を試みた。……仏陀は答え給うた。「悪魔よ、姪欲、及びそ

の他の欲情は全く私に依って亡ぼされた。汝は全く征服されている」。……悪魔は……消え失せた。

**【36】 弟子たちに弟子を取ることを許す**

諸国に遊行に出た弟子たちが、出家を希望する者たちを連れて帰ってくるのが大変であったので、釈尊は弟子たちが自ら弟子を取ることを許可する。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.021) ; その時比丘達は諸方から世尊のところに、出家希望者を連れてきたので、比丘も出家希望者も疲労した。そこで世尊は「汝ら自らそれぞれの方角、それぞれの地方で出家させ、具足戒を与えよ (tāsu-tāsu disāsu tesu-tesu janapadesu pabbajetha upasampādeṭṭha)」と言われた。
- ⑦ 四分律「受戒捷度」(大正22 p.793上) ; 人間遊行説法時、有聞法得信欲受具足戒。時諸比丘、將欲受具足戒者、詣如来所、未至中道、失本信意不得受具足戒。諸比丘以此事白仏。仏言、自今已去聽汝等即與出家受具足戒。
- ⑩ 根本有部律「出家事」(大正23 p.1030中) ; 別有一人。在外遠国、於苾芻処、来求出家。彼苾芻將此人、来於仏所、欲與出家近門。其人在路身亡、乃不得出家。時諸苾芻縁此事故。来白仏言。具如上説。爾時世尊便作是念。疲乏我声聞、若有人求出家近門。在遠国者、我許於苾芻僧衆、與彼出家近門……。

[B] 仏伝経典

- ⑮ 集経(大正03 p.835中) ; 爾時他方有諸人輩、或從處處諸邑聚落及諸国土、各各相喚、意並願樂欲求出家乞具足戒、来波羅奈、到於仏辺、白世尊言。與我出家受具足戒。以是因縁、諸旧比丘、応接勞乏。……爾時世尊……、我今教勅汝諸比丘。至於他方聚落城邑、若有人来欲求出家受具戒者、汝当與其出家受具。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑥ Bigandet. (vol. I p.132, 赤沼 p.176) ; 熱心に大法の宣伝に勤めた諸比丘は……比丘となろうと願い求むる群衆に取り巻かれた。彼等は毎日毎日諸方から……仏陀の御前に押し寄せて……。仏陀は彼等に宣うた。「……その様な遠い所から、わざわざ私の所へ出掛けて来るのは苦痛と煩勞に堪えないことである。それ故、今私は汝等に僧團入許の権利を与える……。」

**【37】 三帰具足戒を定める**

弟子たちが自らの弟子の取り方として、三帰戒によって具足戒を与えることを定める。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.022) ; 自ら出家・具足戒を与える場合には、三帰依によって出家させ、具足戒を与えよ (anujānāmi imehi tīhi saraṇagāmanehi pabbajjamaṃ upasampadaṃ)、と定められた。
- ⑦ 四分律「受戒捷度」(大正22 p.793上) ; 欲受具足戒者、応作如是。教令剃鬚髮著袈裟脱革屣、右膝著地合掌。教作如是語、我某甲帰依仏帰依法帰依僧。今於如来所出家、如来至真等正覺是我

所尊。如是第二第三竟。我某甲已歸依仏歸依法歸依僧、於如来所出家、如来至真等正覺是我所尊。如是第二第三。仏言。自今已去聽三語、即名受具足戒。

- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1030中）；仏許此事已。彼苾芻衆、不知云何與出家與近円。以縁白仏。時世尊告諸苾芻。但有人來、求出家者、當問諸難。若無障難者、然後與受三歸。即令合掌踴躍、当自称名、尽一形世、歸依仏兩足尊、歸依法離欲尊、歸依僧衆中尊。後與受五学処、十戒、二百五十戒。広如余説。

## [B] 仏伝經典

- ⑤集經（大正03 p.835下）；復告比丘。若彼來欲出家之時、汝等應須作如是事。先當為其剃除鬚髮、既剃落已、即教令着袈裟色衣、其着衣時、齊整服飾、偏袒右臂、教在衆前、右膝着地。教令頂禮諸比丘足、禮已還起、在比丘前跪坐、教令合十指掌、作如是語。我某甲、歸依仏歸依法歸依僧。汝等比丘、從今已後、依我勅教、若有人來求欲出家、受戒三歸、即得具足。

## [C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.134, 赤沼 p.177)；然し、この時には次の條項を守らなければならぬ。志願者は先づ鬚髮を剃除せなければならぬ。黄色の衣を用意せなければならぬ。これらの準備が出来たならば、志願者は両肩に掛けた上衣の端を取って蹲踞り、三度歸依仏、歸依法、歸依僧の語を繰り返して、組み合せた両手を額の上まで挙げねばならぬ。

### 【38】30人の賢衆の出家

ウルヴェーラーに來た釈尊が夫人連れでピクニックに來ていた30人の賢衆 (bhaddavaggiyā) と出会い、寶石を盗んで逃げた遊女に因んで出家させる<sup>(1)</sup>。

## [A] 原始聖典

- ①Vinaya 'Mahākhandhaka' (vol. I p.023)；世尊はバーラーナシーに随意の間住されてから (yathābhirantaṃ viharitvā)、ウルヴェーラーに向かつて遊行された。その途中に、30人の賢衆 (bhaddavaggiyā) がそれぞれ夫人を連れて園林に遊びに來ていたのと出会われた……。彼らに法眼が生じ、出家した。
- ⑦四分律「受戒毘度」（大正22 p.793上）；爾時世尊、遊鬱鞞羅劫波園中。時有鬱鞞羅跋陀羅跋提同友五十人、將諸婦女於此園中共相娛樂。其同友中一人無婦。以錢雇一婬女將來共相娛樂。婬女即偷其人財物逃走……。
- ⑧五分律「受戒法」（大正22 p.107上）；於是世尊從鹿苑漸漸遊行到娑羅林在樹下坐。去林不遠有一園觀。時有同友三十人、各將其婦於中遊戲。一人無婦、雇一婬女假好衣服共遊此園……。仏為説種種妙法示教利喜、乃至苦集尽道。三十人皆遠塵離垢得法眼淨、見法得果。見法得果已、白仏言。願與我出家受具足戒。仏言、善來比丘、乃至得阿羅漢亦如上説。爾時世間有九十二阿羅漢。
- ⑧五分律「受戒法」（大正22 p.107上）；時復有六十人為婚姻事行過娑羅林。遙見世尊姿容挺特猶若金山。皆前到仏所頂禮仏足。仏為説法乃至得阿羅漢皆如上説。爾時世間有百五十二阿羅漢。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」（大正22 p.412下）；仏告舍利弗。如来所度阿若憍陳如等五人善來出家善受具足。共一戒一竟一住一食一学一説。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子<sup>(2)</sup>。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀迦留陀夷優波離次度釈種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善來。如是等如来所度善來比丘出家善受具足、共一戒一竟一住

一食一学一説。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善来出家善受具足乃至共一説。是名善来受具足。

- ①根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；即便行詣白氈林中、度六十賢部令住見諦。
- ①根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.948中）；即便行詣白氈林中度六十賢部令住見諦。
- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1027上）；爾時世尊復詣聚落、名白氈林。有六十人、同為善伴。聞仏説已、便得正信。
- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1027上）；爾時世尊復詣聚落名白氈林。有六十人同為善伴。聞仏説已便得正信。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.130中）；爾時世尊、往波羅痾斯城優樓頻螺聚落。既到於彼詣白疊林、在一樹下宴坐而住。時有六十賢部在聚落外、於日日中、與諸女樂共相嬉戲。有一女人……。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.156下）；往詣波羅痾斯城度橋陳如五苾芻衆。次度耶舎五人。次度賢衆六十人民。

#### [B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.175) ;その途中、カッパーシヤ (Kappāsiya 綿樹) 林の中で、バッドヴァグギヤ (Bhaddavaggiya 賢群) 青年三十人を指導し給うた。この中で一番末のものは預流果に、一番上のもの是不還果に入った。彼等をも総て残らず「来れ、比丘よ」という〔出家〕法によって出家させて、諸方へ遣し、お自身は優樓頻羅 (Uruvelā) へと赴き給うた。
- ③中本 (大正04 p.149中) ;於時鹿園中間、有大衆會、飲食歌舞。時有一女、……女舞未竟、忽然不見、……大衆馳趣。……仏告衆人、且自觀身、觀他何為。……大衆心解、願為沙門、仏皆受戒、……皆得応真。
- ⑤集経 (大正03 p.836下) ;而世尊從波羅捺城、遊行漸至優婁頻螺聚落之所。(兵將婆羅門が友人29人と園遊中、同行の姪女が財物を持ち逃げし、それを追って世尊に出会う) ……汝等今者寧求自身、寧欲求覓彼姪婦女、二事之中何者為勝。……願與我等出家受戒……。彼等長老、皆成羅漢、心善解脫。
- ⑤集経 (大正03 p.837下) ;爾時世尊教彼三十長老朋友、得知證已、遊行履歷、經白氈林、到彼林已、深入林中。……爾時彼処、忽有六十雲種姓人、……往詣仏所、……爾時仏。為彼等六十雲種姓人、次第説法、所謂教行布施持戒、乃至證知。彼等長老一切皆得阿羅漢果、心善解脫。
- ⑦衆許 (大正03 p.957上) ;爾時世尊……往詣西曩野備聚落烏魯尾螺池迦囉波娑林下經行宴坐。時聚落中有六十賢衆。……忽有一女於此快樂心生厭離、捨衆逃避不知所至。……我歸依仏歸依法歸依僧、自今已去永不殺生、畢身奉持優婆塞戒。

#### [C] 後世の仏伝資料

- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.120) ;法輪を転じた世尊はイシパタナ (Isipatana) において最初の雨安居を過ごし、……自恣を行って、60人の阿羅漢を諸方に派遣し、自分はウルヴェラー (Uruvelā) に赴きつつ、途中カッパーシカ (Kappāsika) の深林において、30人の賢衆の王子たち (Bhaddavaggiyakumāra) を教導し……。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.134, 赤沼 p.177) ;仏陀は第一の雨期を鹿野苑に過し給うて後、優留毘羅の森に向うて進み給うた。……その時丁度三十名の貴公子が、この藪地に入って歓娛優遊を恣にせんとて入り来つた。……仏陀の……結跏趺坐し給うを見て、……所説を傾聴して完き信奉者

となった。

- (1) 賢衆の30人とは別に他の60人も出家したとするものもある。また、集経ではこの後、釈尊がウルヴェーラーへ行くことになっている。
- (2) 波羅奈城善勝子をこの項目の「賢衆」と解釈した。

### 【39】 ガンジス河の船師の出家

釈尊がガンジス河の渡し舟の船師を出家させ、彼が阿羅漢果を成じる<sup>(1)</sup>。

#### [A] 原始聖典

#### [B] 仏伝経典

- ⑮集経（大正03 p.837下）；爾時世尊漸漸行到恒河岸辺、至於彼已而恒河畔有一船師。……爾時世尊即上船上。……作是語已。時彼船師所有俗形皆隱不現、左手自然執瓦器鉢、頭鬚及髮猶如七日剃落比丘。……即得出家、受具足戒……而彼長老成阿羅漢、心善解脫。
- ⑯MV. (vol. III p.420, Jones III p.421)；比丘等は鹿野苑 (Mṛgadāva) で雨期を過ごし、さまざまな方向に出発した。世尊も出発された。一人の船師がガンジス (Gaṅgā) 河の岸に近づいてきて世尊を見、船を止めた。世尊は船に乗り、船師に言われた。……。……。船師は世尊に導かれて阿羅漢に達した。その時、……。すべての俗形が消えた。三衣一鉢が備わり、髪は落ち、彼の出家は完成した。

#### [C] 後世の仏伝資料

- (1) [B] の⑮では、この前にウルヴェーラーの30人の賢衆と60人の雲種衆の教化が記されているので、ここにおいた。

### 【40】 ウルヴェーラーの牧女が優婆夷となる

初転法輪からウルヴェーラー (Uruvelā) に帰った釈尊に、スジャーター (Sujātā、あるいはナンダー [Nandā] とナンダバラ [Nandabalā]) が帰依し、三歸優婆夷となる。

#### [A] 原始聖典

- ①AN.01-14-07 (vol. I p.026)；私の声聞中で最初の優婆夷として私に帰依したのはスジャーター・セーナーニー女 (Sujātā Senānidhītā) である<sup>(1)</sup>。
- ⑥増一阿含07-01 (大正02 p.560上)；我弟子中第一優婆斯初受道證、所謂難陀難陀婆羅優婆斯是。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.786上)；(成道の時)時世尊受此婆羅門食已、更詣一離婆那樹下、七日中結加趺坐思惟不動、遊解脫三昧而自娛樂。時世尊七日後從三昧起、到時著衣持鉢、入鬱鞞羅村乞食、漸至鬱鞞羅婆羅門舍中庭默然而住。時彼婆羅門婦、是蘇闍羅大將女。見如來中庭默然而住。見已發歡喜心即出食施與世尊。世尊慈愍彼故即受其食。食已告言。汝今歸依仏歸依法。答言如是。我今歸依仏歸依法。諸優婆夷、受歸依仏依法者、此鬱鞞羅婦、蘇闍羅大將女優婆夷為最初。



- ⑧五分律「受戒法」（大正22 p.103中）；（成道の時）仏説偈已、起到鬱鞞羅斯那聚落入村乞食、次到斯那婆羅門舎、於門外默然立。彼女須闍陀、見仏威相殊妙。前取仏鉢盛滿美食以奉世尊。仏受食已語言。汝可歸依仏歸依法。即受二自歸。是為女人中須闍陀最初受二自歸為優婆夷。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；又至勝軍聚落、度二牧牛女亦令見諦。
- ⑪根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」（大正23 p.911上）；於大軍婆羅門及二牧牛女為説妙法令生正見、皆證初果。
- ⑫根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.948中）；至勝軍聚落度二牧牛女亦令見諦。
- ⑬根本有部律「出家事」（大正23 p.1027上）；復詣聚落、名曰軍住。其聚落主、有二女人。一字難陀、二名難陀波羅。聞仏説法、同前正信。
- ⑭根本有部律「破僧事」（大正24 p.130下）；爾時世尊、夜既曉已於晨朝時、著衣入多軍村、作是思惟。於此村中我先為誰説法。復作是念、是時村主有其二女、一名歡喜、二名歡喜力。我先往昔欲捨苦行時、此二女人、先以乳糜及與酥蜜、供養於我、我食此故身力強健。……爾時二女、即從座起整衣服頂禮仏足双膝著地、合掌向仏、白言世尊。我遇妙法獲大勝利、從今以後乃至盡形歸仏法僧、為鄢波斯迦。……

## [B] 仏伝經典

- ③中本（大正04 p.149下）；於是如來、還詣摩竭提界、至優為羅果。暮止梵志斯奈園、明旦持鉢、詣斯奈門。……梵志二女、長名難陀、次名難陀波羅。……如來昇堂、教授二女、歸命三尊、授五戒已。……
- ⑤集經（大正03 p.804中）；爾時世尊、詣難提迦村主之家。……其村主女、……其善生女、……是時善生、最初人間、再受三歸及受五戒作優婆夷。（異説として）
- ⑤集經（大正03 p.838下）；爾時兵將大婆羅門有於二女、一名難陀、二名波羅。……時彼二女聞仏説法……即時得證須陀洹果、……仏乞受三歸五戒。……（耶舎の母、妻より後）
- ⑦衆許（大正03 p.957下）；爾時世尊度彼六十賢衆已、復思何人先可受化。乃憶西曩野爾聚落之中、有難那及長女并眷屬等堪先受化。

## [C] 後世の仏伝資料

- (1) これは苦行を捨てる際の歸依を表しているかもしれない。しかし最初の優婆夷というのであるから、成道後のことと考えてここに収めた。次の増一阿含も同じ。

### 【41-01】三迦葉の歸仏——ウルヴェーラ・カッサパの歸仏

釈尊はウルヴェーラーに住む結髮外道のウルヴェーラ・カッサパ（Uruvelakassapa）に神通力を示して、歸信させる。彼の500人の弟子たちも釈尊のもとで出家する。

## [A] 原始聖典

- ① ‘Theragāthā’ Vs.375~380 (p.042) ；（Uruvelakassapaの詩）世尊の神変を見て、傲慢であった私は世尊の元で出家し、すべての結縛を滅した（anuppatto sabbasaṃyojanakkhayo）。
- ① ‘Apadāna’ 03-54-535 (p.481) ；私と弟のナディー・カッサパ、ガヤー・カッサパは世尊の神変に教化されて、世尊の元で出家して、弟子たち1000人とともに阿羅漢果を得た。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.024) ；世尊は遊行して、ウルヴェーラーに到着された。そのときウルヴェーラーにはUruvelakassapa、Nadikassapa、Gayākassapaという3人の結髮の

修行者 (jaṭṭila) が住んでいた。Uruvelakassapaは500人の、Nadikassapaは300人の、Gayākassapaは200人の弟子を持っていた。世尊はUruvelakassapaの住居に行かれた……。

- ⑥増一阿含24-05 (大正02 p.619中) ; 爾時連若河側有迦葉在彼止住。知天文地理、靡不貫博。算數樹葉皆悉了知。將五百弟子日日教化。
- ⑦四分律「受戒捷度」 (大正22 p.793中) ; 爾時世尊、遊鬱鞞羅。時鬱鞞羅婆界有梵志、名鬱鞞羅迦葉。於彼住止、將五百螺髻梵志、為最尊長師首。鴦伽摩竭國中、皆稱為阿羅漢……。
- ⑧五分律「受戒法」 (大正22 p.108上) ; 諸比丘受教分部而去。世尊便到迦葉所……。迦葉及五百弟子鬚髮自墮、袈裟著身鉢盂在手。既受戒已、以先被服事火之具、皆棄尼連禪河中。是為迦葉及五百弟子受具足戒。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」 (大正22 p.412下) ; 仏告舍利弗。如來所度阿若憍陳如等五人善來出家善受具足。共一戒一竟一住一食一學一説。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀留陀夷優波離次度積種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善來。如是等如來所度善來比丘出家善受具足、共一戒一竟一住一食一學一説。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善來出家善受具足乃至共一説。是名善來受具足。
- ⑪根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717上) ; 又至烏盧頻螺林側、度千外道出家受具。
- ⑪根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.948中) ; 至烏盧頻螺林側度千外道出家近門。
- ⑪根本有部律「出家事」 (大正23 p.1027上) ; 復有一池、名憂樓頻螺。其処有一大仙、名曰迦提。并諸弟子一千人俱。聞仏説法、咸請出家、及受近門。
- ⑪根本有部律「破僧事」 (大正24 p.131上) ; 時有外道、名優樓頻螺迦提、老年一百二十、有五百弟子、在尼連禪河邊林中住……。
- \*① ‘Udāna’ 01-009 (p.006) ; 世尊はガヤーシーサにおられた。そのとき多くの結髮外道たちは冬の雪降る中をガヤー河で沐浴し、火祭りをしてこれで清浄となったと考えた。そこで世尊は、次のようなウダーナを歌われた。「多くの人々はここで沐浴しているが、水では清らかとはならない。真実とダルマにおいてこそ清らかとなり、彼こそがバラモンである (na udakena suci hoti, bahv ettha nhāyati jano, yamhi saccañ ca dhammo ca, so suci so ca brāhmano)」と。(取意。これはウルヴェーラ・カッサバの教化中の1エピソードである。)

## [B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.176) ; [其処で仏は] 三千五百の神通を示現して、一千の結髮道士を伴っている優樓頻羅迦葉 (ウルヴェーラカッサバ Uruvelakassapa) 等の三人兄弟の結髮道士を[仏の法に] 引き入れ、「來れ比丘よ」の法によって出家させて……阿羅漢果に入らしめ給うた。
- ③中本 (大正04 p.149下) ; 近泥蘭禪河邊、有梵志、姓迦葉氏、字鬱鞞羅、年百二十。……修治火祠、……好學弟子、有五百人。……仏言、善來比丘、皆成沙門。
- ④瑞応 (大正03 p.476中) ; 当度尼連禪河、天神為止流令中暫乾。天子渡河、行数十里、見三梵志。(成道前)
- ④瑞応 (大正03 p.480下) ; 又復念此間有優為迦葉、大明勇健、有好名字、……與五百弟子。……欲先開化。……迦葉及五百弟子、鬚髮自墮、皆成沙門。
- ⑤異出 (大正03 p.620中) ; 有三道人、各教授弟子。一道人教五百弟子、一道人者、教三百弟子、一道人者、教二百弟子、凡為千人。仏將五沙門、到三道人所。諸弟子、皆大喜、皆隨仏而去。
- ⑥普曜 (大正03 p.510下) ; 轉復前行見三梵志。一曰憂為迦葉、次曰那提迦葉、次曰竭夷迦葉、

兄弟三人有千弟子。(成道前)

- ⑥普曜(大正03 p.530下) ; 如来於是転法輪已、化彼五人拘隣之等。念此間有優為迦葉等、大有名称、……皆成沙門。
- ⑦方広(大正03 pp.611中) ; 如来化五人竟、作是念言。優樓頻螺迦葉有大名称、與五百弟子俱。……皆成沙門。
- ⑩十二(大正04 p.147上) ; 三年為鬱為迦葉兄弟三人說法、滿千比丘。
- ⑪仏讚(大正04 p.031中) ; 世尊独遊歩 往詣伽闍山 入空静法林 詣迦葉仙人 彼有事火窟  
…… 鬱毘羅迦葉 弟子五百人 随師善調伏 次第受正法
- ⑫BC. (16-21~35) ; この私も……カーシュヤパ〔三〕兄弟の仙人たちを教化するために、王〔家出身の〕仙人たちの住むガヤーへおもむこう……こうして、そのうちに〔ブッダは〕そこに行かれて……そこで苦行の権化のように立っているカーシュヤパ(迦葉)をごらんになった。……五百人の弟子の集団も、彼(ブッダ)の教えを奉ずるにいたった。
- ⑬行経(大正04 p.080中) ; 度第一迦葉 居野象沢者 然後以次度 迦葉之二弟 三兄弟門徒 千人成無着
- ⑬行経(大正04 p.083上) ; 舍衛城門中 逢五百異学 化以火圍繞 方便度脱之 現神足变化 度鬱轉迦葉
- ⑭過去(大正03 p.646上) ; 爾時世尊、即便思惟。……唯有優樓頻螺迦葉兄弟三人。……即發波羅奈趣摩竭提国、……往優樓頻螺迦葉住処。……五百弟子、……師徒相與、随仏而去。
- ⑮集経(大正03 p.840下) ; 是時優婁頻螺聚落、其中有三螺髻梵志仙人居止。第一所謂優婁頻螺迦葉為首、教授五百螺髻弟子。……。第二名為那提迦葉復領三百……。第三名為伽耶迦葉、復領二百……。
- ⑮集経(大正03 p.849下) ; ……。是時彼等五百長老、応声出家、即成具足。
- ⑯MV. (vol. III p.424, Jones III p.425) ; 世尊は1000人の髻髮行者を出現させ、これらを率いてウルヴィルヴァーカーシュヤパ(Urtilvākāśyapa)の所へ来られた。……このようにして五百の神通により、カーシュヤパ、彼の二人の兄弟及び弟子を改宗させた。……ウルヴィルヴァーカーシュヤパと五百人の弟子、ナディーカーシュヤパ(Nadikāśyapa)と三百人の弟子、ガヤーカーシュヤパ(Gayākāśyapa)と二百人の弟子全員が善来比丘戒を受けた。彼等の甥ウパセーナ(U-pasena)も三百人の弟子と共に善来比丘戒を受け……ここに最初の比丘集団は千二百五十人で成り立った。
- ⑰衆許(大正03 p.958上) ; 時摩伽陀国有善相師烏嚕尾螺迦葉、寿年三百歳、自謂已得阿羅漢道、居尼連河側、弟子眷属有五百人。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦(大正50 p.041上) ; 爾時世尊、即便思惟、……唯有優樓頻螺迦葉兄弟三人。(出因果経)
- ③氏譜(大正50 p.092下) ; 経云。仏往摩竭提国、有優樓迦葉兄弟三人。……本起云。汝非羅漢不知道証。
- ④統紀(大正49 p.154上) ; 世尊即發波羅奈趣摩竭提国、日暮寄宿優樓頻螺迦葉住処。……五百弟子願求出家。
- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.120) ; 次第にウルヴェーラー(Uruvelā)に到着した。そこに3ヶ月間(tayo māse)住んでいたが、ある日彼は夜分にウルヴェーラー・カッサパ(Uruvelakassapa)の家に住む竜王を調伏した。……このように彼は3千5百の神変を示して千人の結髮外道を従えた。ウルヴェーラー・カッサパをはじめとする3兄弟の結髮外道を調御し……。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.137, 赤沼 p.180) ; 仏陀はそれらの貴公子を道に入れて、坐を起ちて、

優留毘羅の森へその旅行を続け給うた。その当時、優留毘羅の森には世に卓越した三人の仙者が住み、多数の弟子を統率して名声を遠くへ馳せて居ったのである。第一の仙者は五百人の弟子を統領し、第二は三百人を第三は二百人を統率して居った。優留毘羅迦葉（Ooroowela Kathaba）、那提迦葉（Nadi Kathaba）、伽耶迦葉（Gaya Kathaba）と呼んで居った。

【41-02】三迦葉の帰仏——ナディー・カッサパとガヤー・カッサパの帰仏

河を流れてきた祭具を見て、ウルヴェーラカッサパのもとに赴いた2人の弟と500人の弟子たちは、事情を知って釈尊に帰仏する。

[A] 原始聖典

- ① ‘Theragāthā’ Vs.340~344 (p.038) ; 私 (Nadikassapa) の利益のために仏は尼連禪河にやって来て、私はその法を聞いて邪見を捨てた。……
- ① ‘Theragāthā’ Vs.345~349 (p.039) ; (Gayākassapaの詩) 8つの流れに潜ってすべての悪を流し、三明を得、仏の教えを実行した。
- ① ‘Apadāna’ 03-54-535 (p.481) ; 私と弟のナディー・カッサパ、ガヤー・カッサパは世尊の神変に教化されて、世尊の元で出家して、弟子たち1000人とともに阿羅漢果を得た。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.033) ; Nadikassapaは祭具が河に流れているのをみて、兄に何事かが起こったのを知った……。
- ⑥ 増一阿含24-05 (大正02 p.622上) ; 爾時順水下流、有梵志名江迦葉、在水側住。是時江迦葉見呪術之具、尽為水所漂。便作是念。咄哉、我大兄為水所溺。是時江迦葉將三百弟子……。爾時順水下頭有梵志、名迦夷迦葉、在水側住。遙見呪術之具為水所漂。便作是念。我有二兄、在上學道。今呪術之具尽為水所漂、二大迦葉必為水所害。即將二百弟子、順水上流……。
- ⑦ 四分律「受戒度」 (大正22 p.796中) ; 時迦葉中弟、名那提迦葉。在尼連禪水下流居、有三百弟子、於中最高為尊上……。時鬱鞞羅迦葉小弟、名伽耶迦葉、居象頭山中。有二百弟子、於中為師首……。
- ⑧ 五分律「受戒法」 (大正22 p.109中) ; 迦葉有二弟、大名那提迦葉、小名伽耶迦葉。大弟有三百弟子、小弟有二百弟子。……即共詣仏頂禮仏足、白仏言。願與我等出家受具足戒。仏言。善來比丘。乃至鉢盂在手、亦如上說。
- ⑩ 僧祇律「雜誦跋渠」 (大正22 p.412下) ; 仏告舍利弗。如來所度阿若憍陳如等五人善來出家善受具足。共一戒一竟一住一食一學一說。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀迦留陀夷優波離次度積種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善來。如是等如來所度善來比丘出家善受具足、共一戒一竟一住一食一學一說。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善來出家善受具足乃至共一說。是名善來受具足。
- ⑪ 根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717上) ; 又至烏盧頻螺林側、度千外道出家受具。
- ⑪ 根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.948中) ; 至烏盧頻螺林側度千外道出家近円。
- ⑪ 根本有部律「出家事」 (大正23 p.1027上) ; 仏到伽耶頂制底所、有伽耶迦撰。示現三種神變事已、遂令迦撰、住円寂處。
- ⑪ 根本有部律「破僧事」 (大正24 p.133下) ; 爾時優樓頻螺迦撰、有弟二人、一名那提迦撰、二名伽耶迦撰。各有弟子二百五十人。先於尼連禪河岸勤修梵行處、修寂靜行。那提迦撰住尼連河下流、後於一時尼連禪河中、乃見鹿皮樹皮錫杖祭器等物並被漂沒。見是事已皆作是念……。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.176) ; 【41-01】に含む。
- ③中本(大正04 p.151下) ; 是時迦葉二弟、次曰那提迦葉、幼曰迦耶迦葉、各有二百五十弟子。……仏言、善來比丘、皆成沙門。
- ④瑞応(大正03 p.482下) ; 優為迦葉有二弟、次曰那提迦葉、幼曰竭夷迦葉。二弟各有二百五十弟子、……復成沙門。
- ⑤異出(大正03 p.620中) ; 【41-01】に含む。
- ⑥普曜(大正03 p.532上) ; 優為迦葉有二弟、次名那提、幼曰竭夷。……成為沙門、仏便有千沙門。
- ⑦方広(大正03 p.612中) ; 迦葉二弟、一名難提、二名伽耶、各有二百五十弟子、……皆成沙門。
- ⑩十二(大正04 p.147上) ; 【41-01】に含む。
- ⑪仏讃(大正04 p.031下) ; 那提伽闍等 二弟居下流 …… 二衆五百人 …… 兄今已服道我等亦當隨
- ⑫BC. (16-36) ; そこで兄(ウルヴィルヴァー・カーシュヤパ)がその弟子とともに〔迷いの河の〕彼岸に達して、皮衣を棄てたとき、ガヤーとナディーという〔二人のカーシュヤパ〕もそこにやって来て〔ブッダの〕道を奉じた。
- ⑬行経(大正04 p.080中) ; 度第一迦葉 居野象沢者 然後以次度 迦葉之二弟 三兄弟門徒 千人成無着
- ⑭過去(大正03 p.649下) ; 爾時迦葉二弟、一名那提迦葉、二名伽耶迦葉。各有二百五十弟子、……即成沙門。
- ⑮集経(大正03 p.849下) ; 爾時其弟那提迦葉……自將三百弟子……応時出家、即成具足。爾時伽耶螺髮迦葉……自將二百弟子……応声出家、即成具足。
- ⑯MV. (vol. III p.424, Jones III p.425) ; 【41-01】に含む。
- ⑰衆許(大正03 p.961上) ; 爾時烏嚕尾螺迦葉有其二弟、一名曩提迦葉、二名譏耶迦葉。是二迦葉各有二百五十学徒、……度為沙門。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦(大正50 p.041上) ; 【41-01】に含む。
- ③氏譜(大正50 p.092下) ; 【41-01】に含む。
- ④統紀(大正49 p.154中) ; 時頻螺二弟、一名那提、一名伽耶、……乃各與二百五十弟子願求出家。
- ⑤JM. (p.030, 畑中 p.120) ; 【41-01】に含む。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.137, 赤沼 p.180) ; 【41-01】に含む。

【41-03】三迦葉の帰仏——ガヤーシーサ山において阿羅漢果を成じる

釈尊は3人の迦葉と弟子ら1000人を引き連れてガヤーシーサ(Gayāsisa)山へ行き、3種の神変を示して「一切は燃えている」と説き、彼らすべてが阿羅漢果を得る。

[A] 原始聖典

- ①SN.35-28 (vol. IV p.019) ; 世尊はGayāsisa山に千人の比丘と一緒に住されていた。そこで世尊は比丘らに、「一切は燃えている(sabbam ādittam)」と説かれた。

- ① ‘Udāna’ 01-09 (p.006) ; 世尊がガヤーのGayāsisa山におられたとき、多くの結髪外道 (sambahulā jaṭilā) がいて、寒い冬の河で沐浴し、火祭りをして、それで清らかになると考えていた。世尊は「水浴しても清らかにならない、真実 (sacca) と法 (dhamma) によって清らかになる」とウダーナを唱えられた。
- ① ‘Apadāna’ 03-54-535 (p.481) ; 私と弟のナディー・カッサバ、ガヤー・カッサバは世尊の神変に教化されて、世尊の元で出家して、弟子たち1000人とともに阿羅漢果を得た。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.034) ; 世尊はウルヴェーラーに随意の間住されてから、もと結髪の修行者であった1000人の弟子を連れて象頭山 (Gayāsisa) に向かって遊行された。そこで彼ら1000人は心解脱した。
- ④ 雑阿含0197 (大正02 p.050中) ; 「一時仏住迦闍尸利沙支提、與千比丘俱。皆是奮縈髮婆羅門」。その時世尊は三種示現をなし教化して、「一切焼然」と説かれた。「爾時千比丘聞仏所説、不起諸漏、心得解脱」。
- ⑥ 増一阿含24-05 (大正02 p.622下) ; 是時世尊以此三事、教化千比丘。是時彼比丘受仏教已、千比丘尽成阿羅漢。
- ⑦ 四分律「受戒捷度」 (大正22 p.797上) ; 時世尊度此千梵志授具足已、將至象頭山中。於象頭山中有千比丘僧、以三事教化。一者神足教化、二者憶念教化、三者説法教化……。爾時世尊、以此三事教授千比丘。爾時千比丘、受此三事教授已、即時無漏心解脱無礙解脱智生。
- ⑧ 五分律「受戒法」 (大正22 p.109中) ; 於是世尊作是念。何処多有飲食臥具。於中教誡此故梵志千比丘僧。彼伽耶山多有飲食臥具。念已將千比丘往到彼所、以三事教誡。一者神足教誡、二者説法教誡、三者教勅教誡。……聖弟子聞如是法、生於厭離無有染著、便得解脱解脱智生、所作已辦梵行已立不復受有。說是法時、千比丘漏尽心得解脱也。
- ⑩ 根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717上) ; 又至伽耶山頂、現三神變教化令住安隱涅槃。
- ⑩ 根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」 (大正23 p.911上) ; 留髻外道一千人等並令歸仏出家近円。
- ⑩ 根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.948下) ; 至伽耶山頂現三神變、教化令住安隱涅槃。
- ⑩ 根本有部律「出家事」 (大正23 p.1027上) ; 其処有一大仙名曰迦提。并諸弟子一千人俱。聞仏説法咸請出家及受近円。仏到伽耶頂制底所有伽耶迦提、示現三種神變事已、遂令迦提住円寂処。
- ⑩ 根本有部律「破僧事」 (大正24 p.134中) ; 爾時世尊、度一千被髮外道、受具足戒。於優樓頻螺地随意住已、漸漸遊行至伽耶山、住其山頂窣堵波処。……世尊説此法時、彼千苾芻不受後有故、於諸有漏心得解脱、皆得阿羅漢果。

## [B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.176) ; 一千人の結髪道士を伴っている優樓頻羅迦葉 (ウルヴェーラカッサバ Uruvelakassapa) 等の三人兄弟の結髪道士を〔仏の法に〕引き入れ、「来れ比丘よ」の法によって出家させてガヤーシーサ (Gayāsisa 象頭山) に留ませ、「燃焼方便の説法」によって阿羅漢果に入らしめ給うた。
- ③ 中本 (大正04 p.151下) ; 於時如来、與千比丘僧、詣迦耶悉大叢樹下坐、而入三昧。……姪怒癡火起、便有痛痒。……時千比丘、漏尽望断、皆得阿羅漢。
- ⑩ 仏讚 (大正04 p.031下) ; 彼兄弟三人 及弟子眷属 世尊為説法 即以事火譬 愚癡黒煙起 乱想鑽燧生 貪欲瞋恚火 焚燒於衆生 …… 如是千比丘 …… 一切心解脱
- ⑫ BC. (16-37) ; それから牟尼はガヤーシールシャ (象頭) 山において、彼ら三人のカーシュヤパとその弟子たちに対して、〔迷いの世界からの〕出離の訓話をなされた。

- ⑮集経（大正03 p.850中）；爾時世尊在彼優婁頻螺迦葉聚落之内……漸漸行向伽耶城邊。如來在彼象頭山頂、將是一千比丘徒衆停住。……汝等比丘、今應當知、此一切法、皆悉熾燃。……彼諸一千比丘徒衆、……心得解脫。
- ⑰衆許（大正03 p.962上）；爾時世尊、度迦葉等千苾芻已。……將耆年迦葉等一千苾芻、往譏耶山頂塔處經行。……告曰、……諸苾芻、三火熾盛由我為本。……時三迦葉及千苾芻、……得心解脫、……悉皆證得阿羅漢道。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑤JM. (p.031, 畑中 p.122) ; ガヤーシーサ (Gayāsisa 象頭山) において「燃火の教え」の説示によって阿羅漢位に安立せしめ……。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.146, 赤沼 p.191) ; 仏陀は千人の弟子を伴いて、ガヤー河の畔にあるガヤーシーサ (Gayathitha) の村に入り給うた。この村の傍に象の頭に似た形の山があるが……仏陀は弟子と共にこの山の頂に昇りて、岩の上に安座し、弟子等呼んで、左の如く語り給うた。「愛する比丘等よ。人界、色界、無色界に於てめぐりあうものはみな燃ゆる炎である。……」

【42】法雨林の苦行者の教化

ガヤーシーサ山から王舎城への途中に法雨林があり、ここに住する苦行者が歸仏する。

[A] 原始聖典

[B] 仏伝経典

- ⑮集経（大正03 p.856中）；爾時世尊、經於少時、住象頭山、次第漸欲向王舎城、遊歷而行。是時去彼優婁頻螺聚落、未幾至王舎城。其間有一旧仙人居林苑處所、名曰法雨。而其法雨林内、有旧仙人草庵、其中常有五百苦行道人而住、……皆悉百歲。……
- ⑰MV. (vol. III p.434, Jones III p.436) ; 世尊はウルヴィルヴァー・カーシュヤパ (Uruvilvā-kāśyapa) の住処を千二百五十人の比丘達と共に去り、法雨林 (Dharmāraṇya) にこられた。そこには七百人の髻髮行者が住んでおり、全員二千才であった (saviṃśāsatavaṣṭikāni)。……彼等は世尊によって改宗し、自在神力 (balavaśībhāva) を得、涅槃に入った。

[C] 後世の仏伝資料